

高齢者単身世帯の生活満足度向上に 関する施策提案～わくわくSEIBU～

<地域活性化チーム>

安部 美聖（大分県生活環境部） 中村 圭佑（九重町企画調整課）
二宮 廉（由布市総務課） 蓑田 有平（大分県教育庁）

令和4年10月14日（金）

1. 単身高齢者はなぜ不幸せ？
2. 幸せの鍵は社会とのつながり
3. 地域の交流を生む施策／事業提案
4. 誰もが安心して暮らせる街へ

1. 単身高齢者は なぜ不幸せ？

大分県について

- 九州地方東部に位置
- 推計総人口は1,106,495 人（令和4年9月現在）
- 推計総世帯数は493,585世帯（令和4年9月現在）
- 以下 6 つの地域毎に県の振興局が設置

東部地域：別府市、杵築市、国東市、姫島村、日出町

中部地域：大分市、臼杵市、津久見市、由布市

南部地域：佐伯市

豊肥地域：竹田市、豊後大野市

西部地域：日田市、九重町、玖珠町

北部地域：中津市、豊後高田市、宇佐市



【出典】

- ・大分県企画振興部統計調査課「大分県の人口推計結果の概要」

<https://www.pref.oita.jp/site/toukei/index-cpe.html>

- ・国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村面積調」

<https://www.gsi.go.jp/KOKUJYOHO/MENCHO-title.htm>

- ・大分県HP「大分県の市町村」

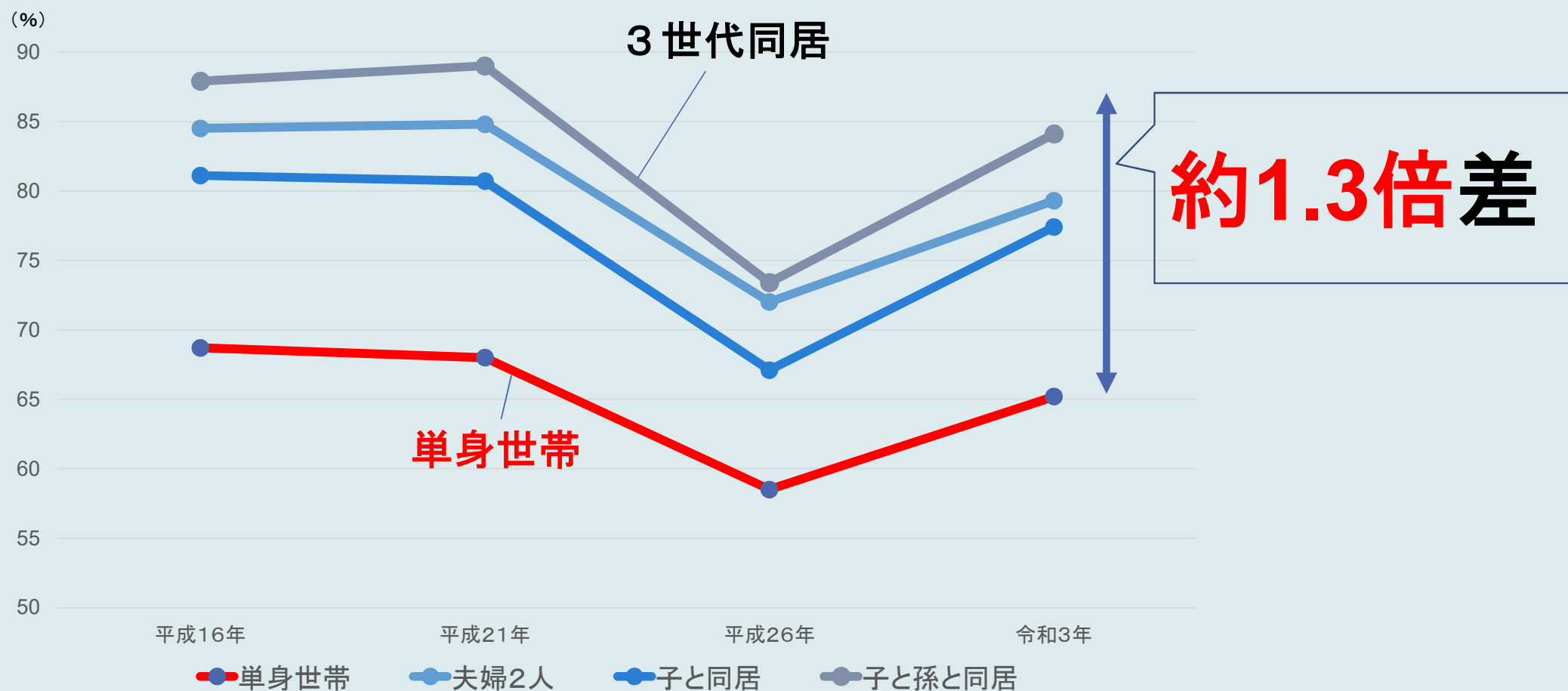
<https://www.pref.oita.jp/site/kids/sichoson.html>

高齢者単身世帯数は総世帯数の約14%

69,725 世帯

出典：（令和2年度国勢調査）<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka.html>

単身高齢者の生活満足度は低い



単身高齢者は外出意欲が低い

「外出したいと思わない」と答えた割合

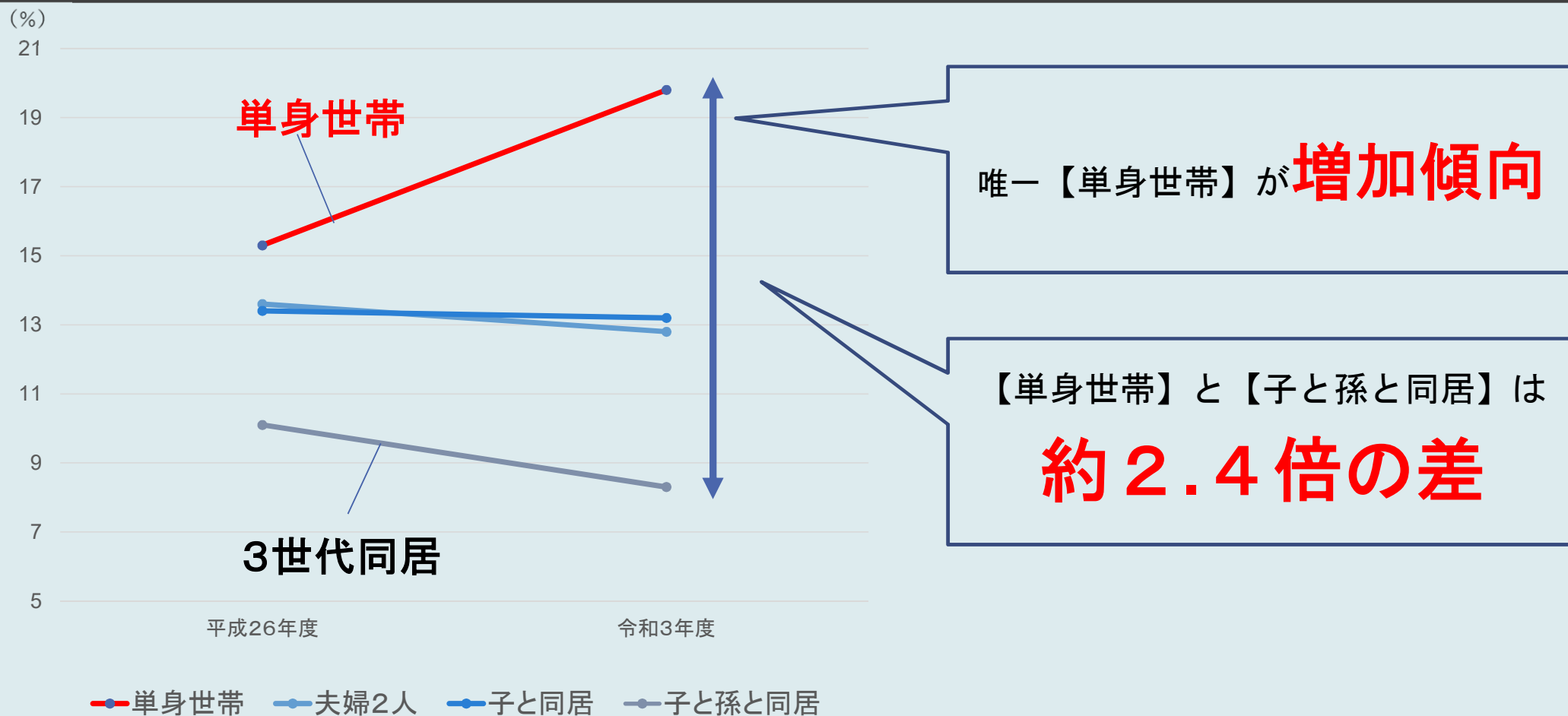
	平成26年度	令和3年度
高齢者単身世帯	4.8%	6.0%
子と孫と同居	4.7%	3.8%
子と同居	4.9%	2.1%
夫婦2人世帯	2.8%	2.0%

3倍の差

出典：内閣府「一人暮らし高齢者に関する意識調査」（平成26年）、内閣府「高齢者の日常生活・地域社会への参加に関する意識調査」（令和3年）

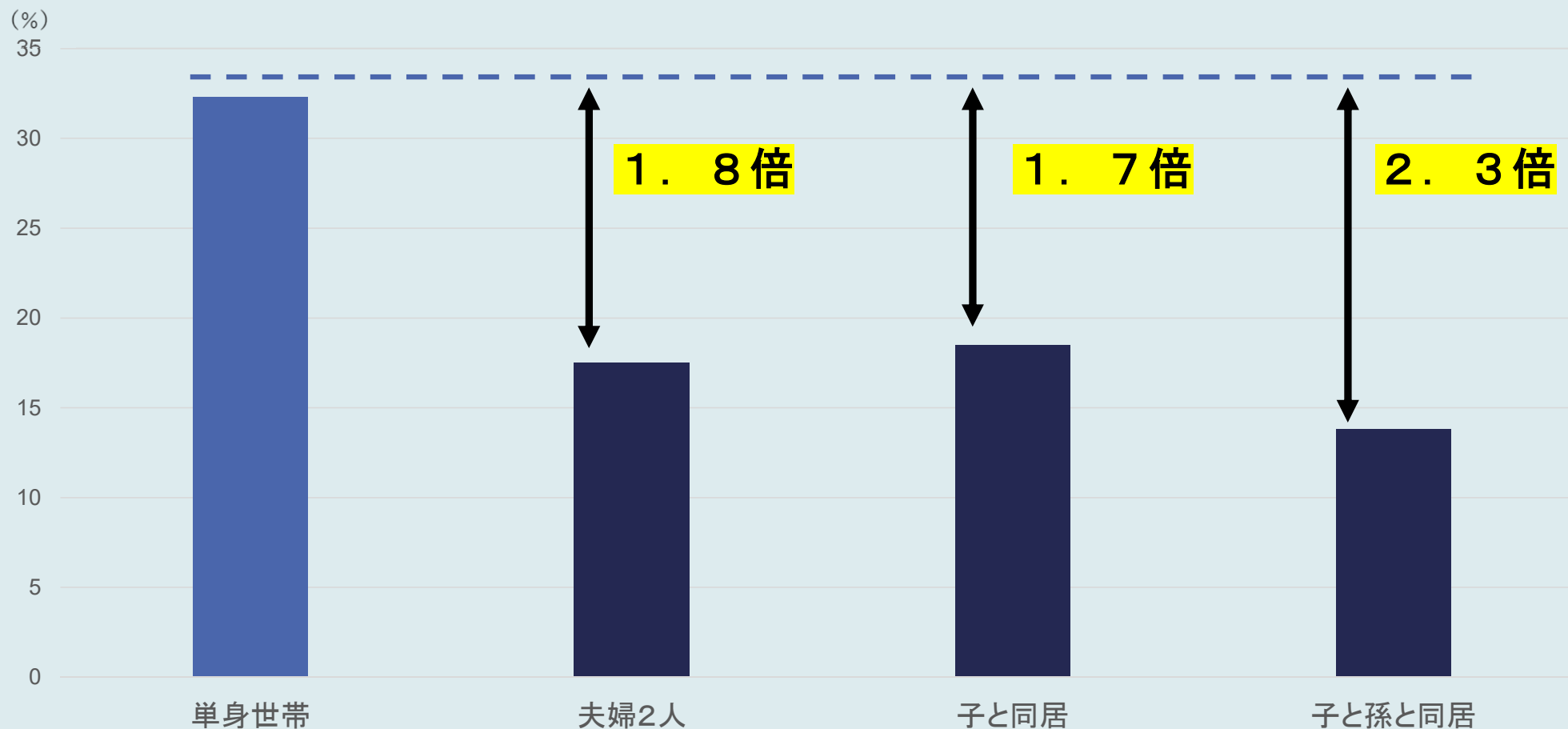
<https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/kenkyu.html>

単身高齢者は情報の受け取りに不満を持っている



出典：内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」（平成26年、令和3年） <https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/kenkyu.html>

単身高齢者は孤立していると感じている



出典：高齢者の日常生活・地域社会への参加に関する調査（令和3年） <https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/kenkyu.html>

単身高齢者は頼れる人がいない（特に男性）

「（子ども以外の）介護や看病で頼れる人」（％）

世帯タイプ	合計（n）	いない	人に頼らない	いる
単独高齢男性世帯	294	58.2	11.2	30.6
単独高齢女性世帯	528	45.1	12.9	42.0
夫婦ともに高齢者世帯	2,033	30.7	7.1	62.2
二親世帯（三世代）	911	18.9	4.6	76.5

出典：国立社会保障・人口問題研究所（2018）「2017年社会保障・人口問題基本調査 生活と支え合いに関する意識調査」図表Ⅳ-7

3～5年

課題：高齢者単身世帯の生活満足度が低い

高齢者単身世帯の生活意欲の低下・ストレス・うつ病の増加

外出機会の減少・体力の低下

地域社会交流の減少・健康被害

X年後

<バッドエンド>
孤独死の増加、地域の自治力低下

課題分析～課題ツリー作成～

中心課題：高齢者単身世帯の生活満足度が低い

社会的な居場所がない

将来に対して不安がある

地域における役割がない

新しい人間関係が作れない
(出会いがない)

有事に気づいてくれる
人がいない

貯蓄・収入が
少ない

ボランティア、老人
クラブに参加する
高齢者が少ない

地域間の交流が少ない

高齢者になるまでに仕
事以外で人脈が
作られてない

高齢者が働ける
環境が少ない

高齢者に
参加する
意欲が少
ない

イベント
の情報が
伝わって
いない

コミュニ
ティの核
となる人
が少ない

高齢になるまで
に老後の過ごし
方について考え
る機会が少ない

高齢者の就労
についての情
報にアクセス
しづらい

健康増進が進ん
でおらず選べる
職業が限られる

①

②

③

④

⑤

⑥

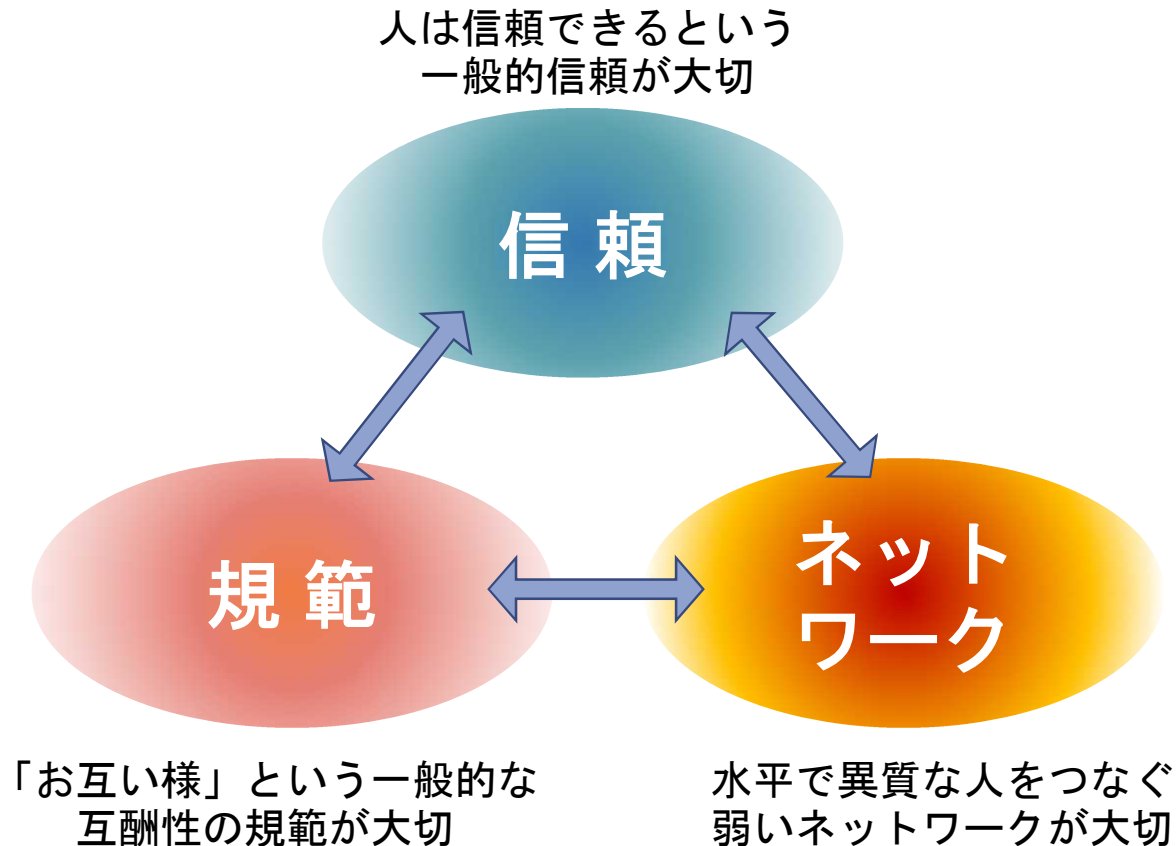
【1章まとめ】

単身高齢者は不幸せだ

→どのように解決していけば良いのか？

2. 幸せの鍵は 社会とのつながり

社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）



ロバート・D・パットナム／ハーバード大学ケネディスクール教授。1941年、ニューヨーク州ロチェスター生まれ。オハイオ州ポート・クリントンで育つ。イエール大学にて博士号を取得。2001－2002年、アメリカ政治学会会長。ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）の提唱者として知られる。2006年、ヨハン・スクデ政治学賞受賞（撮影：梅谷秀司）

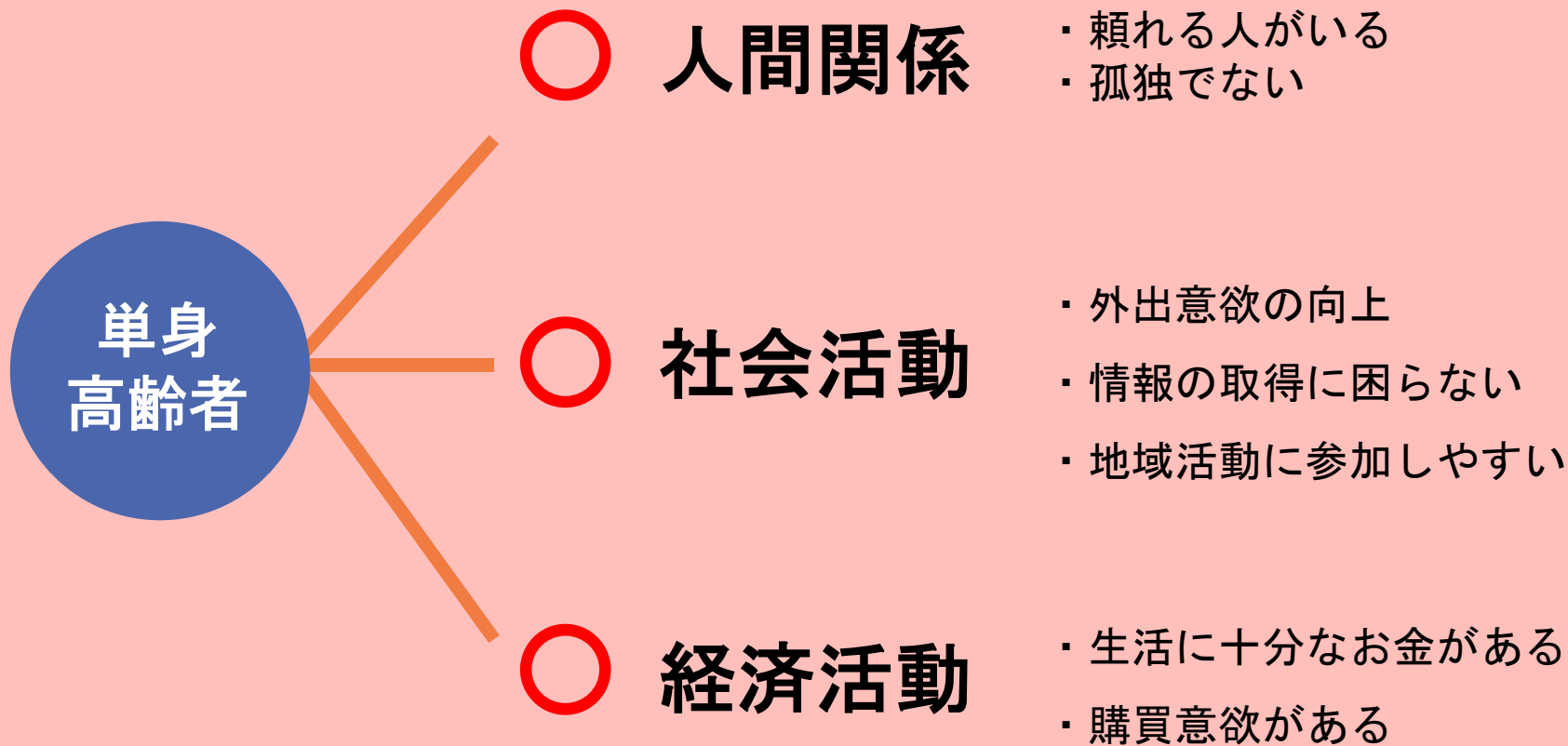
出典：孤独なボウリングー米国コミュニティの崩壊と再生 - 2006/4/1
[ロバート・D. パットナム](#) (著), [Robert D. Putnam](#) (原著), [柴内 康文](#) (翻訳)

- 頼りになる人の数やボランティア活動の頻度等が増加するほど満足度が高い
- 趣味や生きがいの有無で満足度の差が大きい



**生活満足度は社会とのつながりと
大きく関わりがある**

つながりを強くすることが 高齢者単身世帯の生活満足度を向上させる



課題分析～課題ツリー作成～

中心課題：高齢者単身世帯の生活満足度が低い

社会的な居場所がない

地域における役割がない

ボランティア、老人クラブに参加する高齢者が少ない

高齢者に参加する意欲が少ない

①

新しい人間関係が作れない
(出会いがない)

地域間の交流が少ない

イベントの情報が伝わっていない

②

コミュニティの核となる人が少ない

③

(再掲) ④

有事に気づいてくれる人がいない

高齢者になるまでに仕事以外で人脈が作られてない

高齢になるまでに老後の過ごし方について考える機会が少ない

④

将来に対して不安がある

貯蓄・収入が少ない

高齢者が働ける環境が少ない

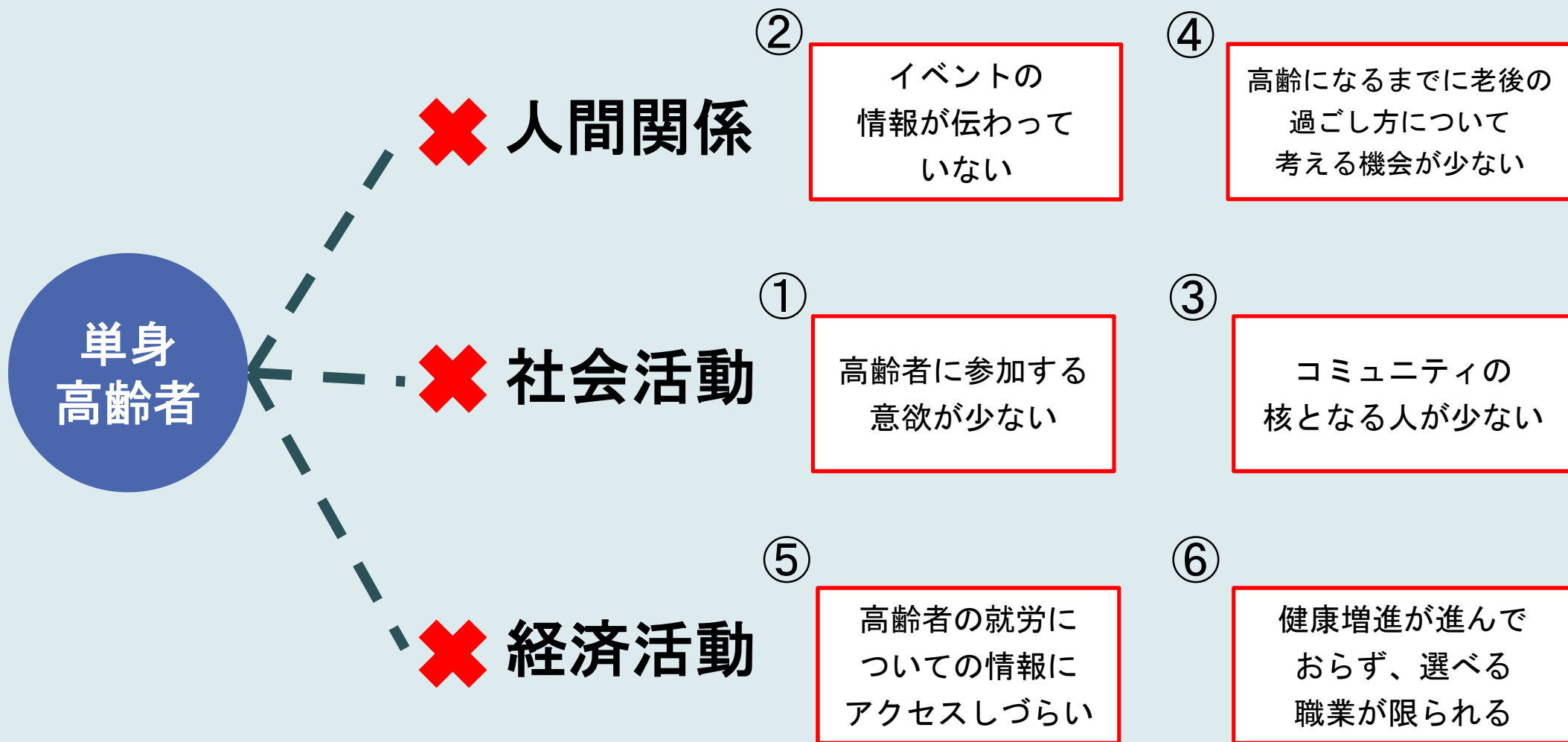
高齢者の就労についての情報にアクセスしづらい

⑤

健康増進が進んでおらず選べる職業が限られる

⑥

単身世帯の高齢者はどの環境にも属せず、孤立している



ペルソナ 孤立する単身高齢者

佐藤 茂男さん
70歳（男性） 無職

- ・ 生活保護受給
- ・ 未婚
- ・ 同居の両親は数年前に他界
- ・ 40歳のときに人間関係が原因で健康状態が悪化し離職、以後は定職に就かず。
- ・ 69歳のときに足を骨折し、それ以来外出が億劫になっている。

ペルソナを設定することで、
施策を受ける側の視点で分析！

カスタマージャーニー 茂男さんバッドエンドVer.

	現在	2～3年後	5年後	10年後	X年後
生活	ひととおりの家事は自分で	家事が億劫になってきた	当たり前にできていたことができなくなる	何もしたくない	低栄養
お金	貯蓄を切り崩しながら生活	残高が少なくなってきた	生活を切り詰める	貯金が底をつく	生活が困難
気持ち	ひとり気楽	誰かに頼りたいが、誰もいない	孤独を感じる	これ以上長生きしたくない	無気力
体力	ひとりで外出できる	外出頻度の減少	通院、日常の買い物が困難	ひとりでは外出できない	不健康
施策	老人クラブへの助成、健康体操サロンの開催、生涯学習の推進				

現在県・市町が実施している施策の一部紹介

	課題ツリー	行政の対策(施策)	事業内容
①	高齢者に参加する意欲が少ない	いきいき高齢者地域活動推進事業	パワフルシニア応援事業等の助成金 アクティブシニア養成講座の実施
②	イベントの情報が伝わっていない	※特別な事業なし。 各事業HP等にて広報	
③	コミュニティの核となる人が少ない	地域包括ケアシステム構築推進事業	地域ケア会議アドバイザー強化研修の実施
④	高齢になるまでに老後の過ごし方について考える機会が少ない	※事業なし →働き方改革を進めれば自然と時間が出来て、進むはず。	
⑤	高齢者の就労についての情報にアクセスしづらい	※特別な事業なし。 各事業HP等にて広報	
⑥	健康増進が進んでおらず、選べる職業が限られる	咸宜大学の開催 【日田市】	健康寿命延伸が目的。高齢者の生涯学習のサポートとなる講義を開催

現在実施している施策はどのような点が課題なのか？

担当者に聞いてみた！



大分県高齢者福祉課
(パワフルシニア
担当者)

- ・ 施策について申請は多い。ただし、申請内容はカラオケが多く、偏りが生じている。



日田市社会教育課
(咸宜大学担当者)

- ・ 咸宜大学は登録者（学生）が講義を受けるものだが、登録しただけで来ない人がいる。
- ・ 来る人がいつも決まっていて、やる気のある人とそうでない人の差が激しい。

- ・ インセンティブ
- ・ やる気のない人や
現在は関心の薄い人も
参加したくなるような
地域ぐるみのもの

があれば
もっと良くなる？

事例紹介～仮説の鍵は地域通貨？～

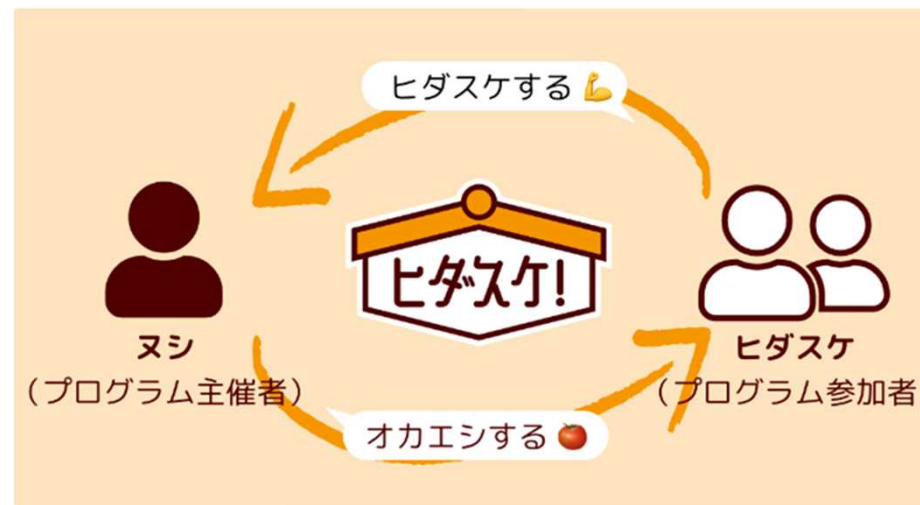
◆地域とのつながりを強めるために地域通貨を導入

地域通貨...特定の地域やコミュニティ内で利用できる通貨

【メリット】

- ・地域内でしか使えないため、地域経済の活性化、地域住民同士の交流機会の増加につながる。
- ・行事参加にクーポン等のお得感をつけることで、高齢者を始めとした地域住民の参加意欲向上が見込める。

「さるぼぼコイン」 （飛騨市・高山市・白川村） 「ヒダスケ！」 （飛騨市）



出典：さるぼぼコイン (<https://www.hidashin.co.jp/coin/>) ヒダスケ (<https://hidasuke.com/>)

（事例）電子地域通貨「サンセットコイン」（静岡県・西伊豆町）

①健康マイレージ事業など、**事業とタイアップ**。

→健康関連行事に参加することで、ユーヒを付与し、健康増進にも一役買っている。

②**釣った魚をユーヒで買い取る**などの取り組みを行った。

→釣り客（観光客）や子どもを取り込むことに成功し、利用者の幅が広がった。

③全町民に1人あたり10,000円相当のポイントが使える**カードを配布**。

→ポイントの有効期限を定めることで、即効性・確実性を強化した。

（参考）初期費用：約900万円 維持管理費用：約120万円／年

【2章まとめ】

課題分析～仮説ツリー～ 地域とのつながりが強くなればQOLが向上

中心課題：高齢者単身世帯の生活満足度が高い

社会的な居場所がある

将来に対して不安が和らぐ

地域とのつながり（社会関係資本）が高まる

地域における
役割がある

新しい人間関係がある
（出会いがある）

有事に気づいて
くれる人がいる

貯蓄・収入が
ある

ボランティア、
老人クラブに
参加率が高い

地域間の交流がある

高齢者になるまでに
仕事以外の人脈が
作られている

高齢者が働ける
環境がある

高齢者に参加
する意欲が
ある

イベントの
情報が
伝わっている

コミュニティ
の核となる
人がいる

高齢になるまでに老後
の過ごし方について
考える機会がある

高齢者の就労に
ついての情報が
アクセスできる

健康増進が進み、
選べる
職業がある

【2章まとめ】

行政が主催するいろいろな事業への参加を促進

単身高齢者に社会参加のきっかけを

イベントなどの開催を通じて、地域コミュニティの形成・強化を図る

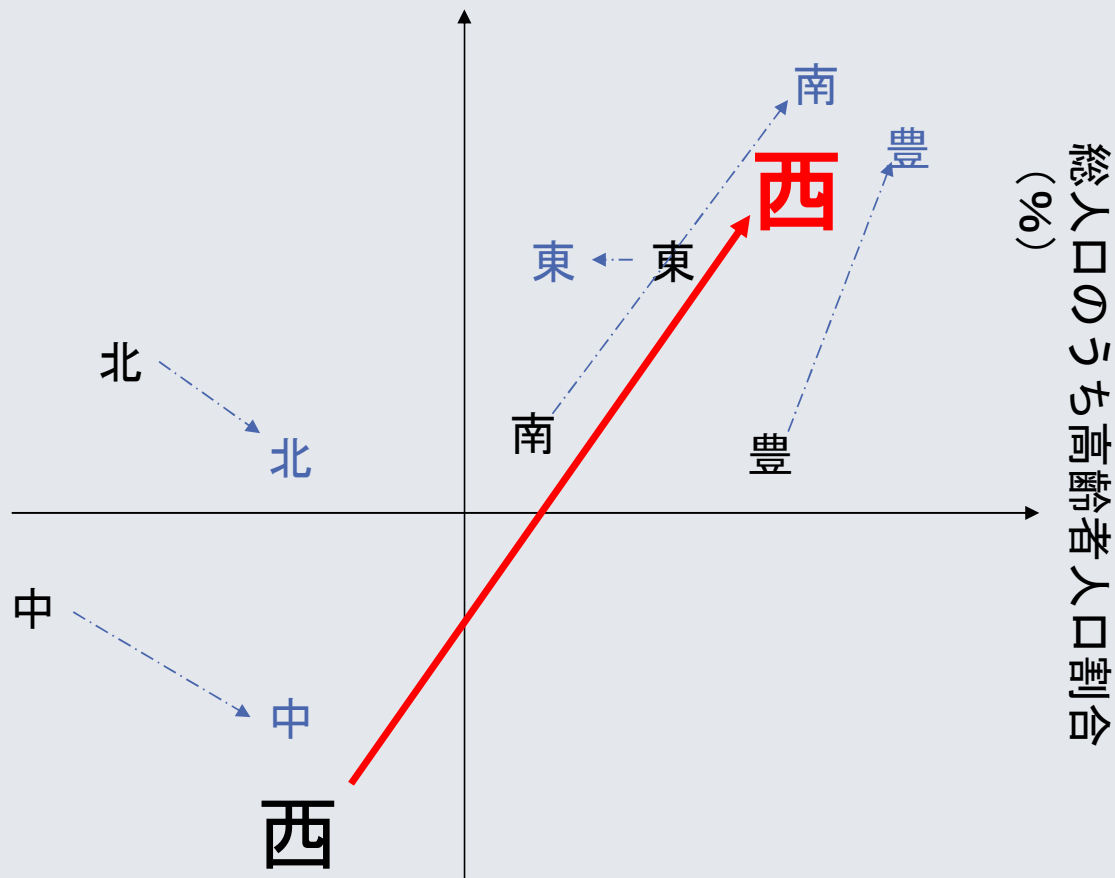
インセンティブを作ることで、社会関係資本が高まる。
＝地域のつながりが増し、単身高齢者が孤独にならない

地域通貨を利用した取り組み

3. 人と地域の交流を生む 施策／事業提案

対象の設定：高齢者人口・単身世帯の地域別分布図

高齢者人口のうち単身世帯の割合（％）



西部地域の 伸び率が最大

黒文字—2020年データ

赤文字—2045年推計データ

（出典）

総務省統計局「令和2年国勢調査」

<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>

「SEIBUコイン」

西部＝SEIBU＝「SAVE：守る」

＜理念＞

大分県西部地域限定の地域通貨として、3つの視点から地域を守る。

1. 「健康」 体操や健診への参加、外出機会の増加による健康増進
2. 「安心」 交流促進による孤立防止、地域の防犯力向上
3. 「交流」 コインをきっかけにした住民同士の交流機会の増加

「SEIBUコイン」使用イメージ

※運営事務局：

市町職員が住民との窓口
→県職員が取りまとめ
広域のマッチング

ボランティア
マッチング



有償ボランティア
(コイン利用)

地域住民

地域住民

地域通貨運営事務局(行政)

委託

地域通貨
システム
提供会社

①

- ・事業参加
- ・チャージ

コイン付与
(プレミアム
ポイント)

提携・
換金申請

協力依頼・
コイン換金



購入

③

イベント主催者
地域商店

サービス

②

「参加して、もらう」が望ましい

健康

健康づくり促進事業

- ・ 体操サロン
- ・ 健康診断
- ・ 栄養相談

安心

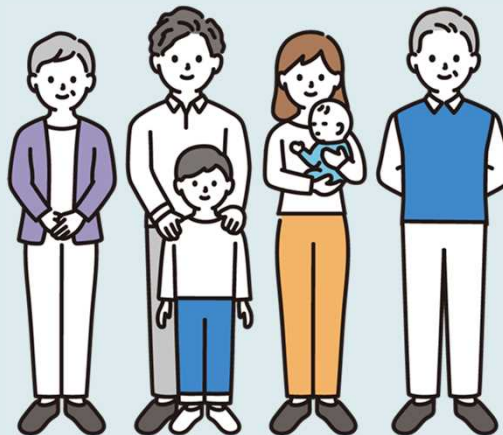
有償ボランティア

- ・ 地域の困りごとをお手伝い

交流

イベント／特典

- ・ 商店独自の特典
(マイバッグ、マイボトル
持参ポイントetc.)
- ・ 祭り、フェス



使い方「地域内循環」

ボランティアをお願いする ➡ お手伝いしてくれた人へ

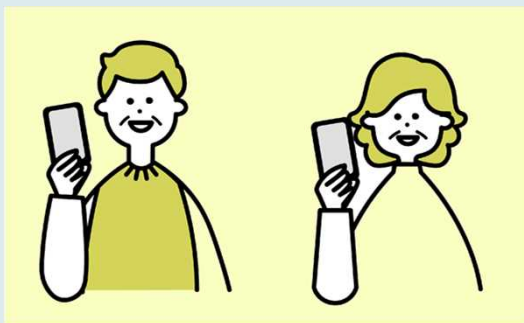
掃除、料理など身の回りのちょっとしたことを助けてもらおう

地域の商店でお買い物 ➡ 地域商店、生産者の売上げに

地域で採れたものを買ったり、店や町中での何気ない会話を楽しもう

地域のイベントに行ってみよう ➡ 交流、賑わいが生まれる

イベントに参加するとお得なポイントがもらえる！せっかくだから行かなきゃ損！



ステークホルダー

<人間関係>

住民

自治会・隣保班

老人クラブ

女性団体・NPO等

<地域>

行政（県、市、町）

福祉施設

医療

学校

農協

町の商店

交通系事業者

金融機関

郵便局

まちづくり協議会

<経済>

商工会議所

商工会

行政職員の業務・関与



地域住民への説明 提携商店の探索

地域住民・商店に対する説明会の開催
※現在実施中の地域ケア会議の場などを活用



システムの導入 関連機器の整備

システムの入札
住民がコインをチャージ出来る機器の整備



SEIBUコインの購入

導入するシステムにて現金を振り込みSEIBUコインを購入する

導入期



SEIBUコインの 付与・換金

事業参加者に対するコイン付与。イベント主催者、地域商店から申請があったコインの現金への換金。



マッチングシステム の運営

住民間同士の相互サービスにおけるマッチングシステムの運営※市町が窓口。広域のものは県が紹介。

運営期

施策／事業が及ぼす効果

健康



日常の運動量の増加
日常会話の増加
健康増進事業参加増

安心



地域住民の交流増
地域防犯力向上
孤独・孤立抑止

交流



地域商店の利用増
消費行動拡大
イベント数・参加数増

→ 社会関係資本が高まる！

「SEIBUコイン」

西部＝SEIBU＝「SAVE：守る」

＜理念＞

大分県西部地域限定の地域通貨として、3つの視点から地域を守る。

1. 「健康」 体操や健診への参加、外出機会の増加による健康増進
2. 「安心」 交流促進による孤立防止、地域の防犯力向上
3. 「交流」 コインをきっかけにした住民同士の交流機会の増加

(再掲)

4. 誰もが安心して 暮らせる街へ

施策／事業が及ぼす効果～ハッピーエンド～

3～5年

①健康増進、②地域防犯力の向上、③地域交流の増加

地域とのつながり（社会関係資本）が高まる

高齢者単身世帯の生活意欲の向上

外出機会の増加

地域社会交流の活発化

X年後

ハッピーエンド：地域の自治力増加、孤独死の減少

カスタマージャーニー 茂男さんハッピーエンドVer

現在

2～3年後

5年後

10年後

X年後

生活

ひととおりの
家事は自分で

家事は有償ボ
ランティアに
頼んでみよう

何度も利用し
顔なじみがで
きた

困ったときで
も助けてもら
える

ひとりでも
安心して
暮らせる

お金

貯蓄を切り崩
しながら生活

お得は嬉しい

SEIBUでお得
にポイントゲ
ット

SEIBUヘビー
ユーザー

贅沢はしない
が満足

気持ち

ひとは気楽

お得なら使っ
てみよう

いろんな使い
方があって面
白い

SEIBUをきっ
かけに会話が
増えた

長生きしたい

体力

ひとりで外出
できる

SEIBUを貯め
にサロンに行
ってみよう

サロンの習慣
化、外出する
のも悪くない

同年代に
比べて元気

健康寿命 ↑

施策

地域とのつながりをつくる地域通貨の導入

施策／事業の位置付け

政策（県政推進上の位置付け）：

健康長寿・生涯現役社会の構築～健康寿命日本一の実現～

➡ 施策：高齢者の活躍と地域包括ケアシステムの構築

➡ 事業：地域通貨SEIBUコイン

既存事業とのすみ分け

- ポイント（クーポン）をもらうという点で類似性のある
「みんなで進める健康づくり事業」との違い

みんなで進める健康づくり事業	働く世代が主な対象、地域による縛りはなし	健康アプリによる達成状況に応じてポイントゲット
地域通貨SEIBU	対象は地域に特化	地域活動や県事業への参加によりポイントゲット

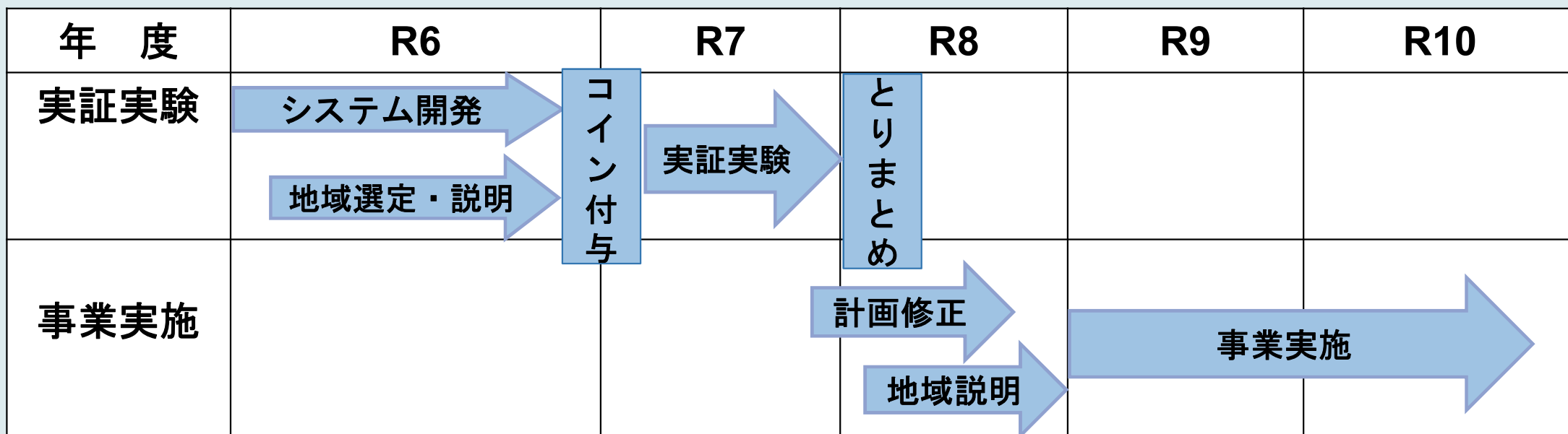
- 地域に特化し、高齢者を主な対象としているという点で類似性のある
「地域包括ケアシステム構築推進事業」との違い

地域包括ケアシステム構築推進事業	地域包括ケアシステム構築に向けた会議や人材育成	地域ケア会議の開催により、地域の課題を見つけることが可能
地域通貨SEIBU	地域のみで使用可能な地域通貨の発行	通貨の利用を中心とした、地域内交流の活発化が図れる

地域通貨SEIBUは既存事業よりも地域内交流活発化に重点をおいた事業

予算とスケジュール

実証実験	R6年度（導入経費 11,400千円）		事業実施	R9年度（ランニングコスト 6,300千円）	
	・ システム開発費用	6,000千円		・ システム保守・維持費	1,200千円
	・ システム導入費	3,000千円		・ 地域通貨配布費用	2,000千円
	・ 地域通貨配布費用	800千円		・ 地域説明会等	100千円
	・ 地域説明会等	100千円		・ 人件費	3,000千円
	・ 人件費	1,500千円			

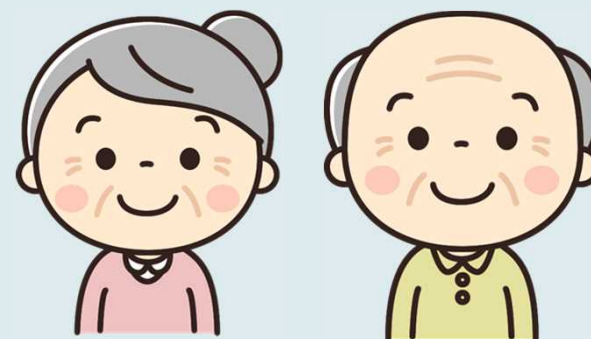


KGI／KPIの設定

K G I 日常生活に満足している単身高齢者の人数を
50%アップさせる

K P I SEIBUコイン利用者数を初年度1, 000人とし、
その後は年間20%ずつ増加させる

→新規利用者を獲得するキャンペーンや、既存利用者の
引き留めが重要



【1章まとめ】

単身高齢者は不幸せだ

→どのように解決していけば良いのか？

【2章まとめ】

課題分析～仮説ツリー～ 地域とのつながりが強くなればQOLが向上

中心課題：高齢者単身世帯の生活満足度が高い

社会的な居場所がある

将来に対して不安が和らぐ

地域とのつながり（社会関係資本）が高まる

地域における役割がある

新しい人間関係がある
（出会いがある）

有事に気づいてくれる
人がある

貯蓄・収入がある

ボランティア、老人クラブに参加率が高い

地域間の交流がある

高齢者になるまでに仕事以外の人脈が作られている

高齢者が働ける環境がある

高齢者に参加する意欲がある

イベントの情報が伝わっている

コミュニティの核となる人がある

高齢になるまでに老後の過ごし方について考える機会がある

高齢者の就労についての情報にアクセスできる

健康増進が進み、選べる職業がある

【3章まとめ】

「SEIBUコイン」

西部＝SEIBU＝「SAVE：守る」

<理念>

大分県西部地域限定の地域通貨として、3つの視点から地域を守る。

1. 「健康」 体操や健診への参加、外出機会の増加による健康増進
2. 「安心」 交流促進による孤立防止、地域の防犯力向上
3. 「交流」 コインをきっかけにした住民同士の交流機会の増加

【4章まとめ】

施策／事業が及ぼす効果

3～5年

①健康増進、②地域防犯力の向上、③地域交流の増加

地域とのつながり（社会関係資本）が高まる

高齢者単身世帯の生活意欲の向上

外出機会の増加

地域社会交流の活発化

X年後

ハッピーエンド：地域の自治力増加、孤独死の減少

ご清聴ありがとうございました



Special Thanks !!

大分県福祉保健部高齢者福祉課
大分県西部振興局
日田市社会教育課
中津市社会福祉協議会